

2021 年度 10 月入学・2022 年度 4 月入学
金沢大学大学院法学研究科(修士課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	法学・政治学専攻	選抜区分	一般・ 外国人 ・社会人
試験科目	法理学1		

別紙は、ラートブルフ「実定法の不法と実定法を超える法」(1946 年)の一部である。これを参考に、次の二つの問に答えなさい。なお、解答の文字数は指定しない。

問 1 「ラートブルフ定式」についてラートブルフの法概念と比較しつつ説明しなさい。同定式に対する H.L.A.ハートによる批判についても触れること。

問 2 別紙 262 頁においてラートブルフは次の三例を「不正な法というよりは、そもそも法では全くない」ものとして挙げている。

- (1)
- (2)
- (3)

ラートブルフはこれらの例をなぜ「そもそも法では全くない」とみなしたのか、それぞれの例について説明し、さらに、反論をする(すなわち(1)~(3)は「法である」と主張する)とすればどのような反論が考えられるかを説明しなさい。

別紙:グスタフ・ラートブルフ(小林直樹訳)「実定法の不法と実定法を超える法」『ラートブルフ著作集第 4 巻 実定法と自然法』(東京大学出版会、1961 年)259-263 頁